

グリーンウェーブ

やまぐち農試だより

16 号

平成16年 3 月
編集・発行
山口県農業試験場

やまぐちオリジナルユリ・新シリーズ

小輪タイプのユリ新品種『プチソレイユ』登場！

花の直径が約10cmと小さくてかわいらしく、明るい透明感のあるオレンジ色の新しいタイプのユリ「プチソレイユ」を育成しました。

「^{つぼみ}蕾の着色が良い」「^{ちようか}頂花まできれいに開花する」など高い評価を受けており、フラワーアレンジメントなど様々な利用が期待されています。

現在、県内で球根を増殖しており、2004年秋から県内の生産者が栽培を開始し、切り花は、2005年1月頃からの出荷が見込まれています。

今後も、「プチソレイユ」に続く小輪タイプの新品種の開発に取り組んでいきます。
(育種開発部)



極早生イタリアンライグラス

日本初！ いもち病抵抗性新品種『さちあおば』を育成

イタリアンライグラスは家畜への栄養価や嗜好性の高いイネ科の牧草で、県内で広く栽培・利用されています。近年、イタリアンライグラスに*いもち病*が多発し、大きな被害が



生じていますが、いもち病に抵抗性のある品種は市販されていません。そこで、農業試験場では、国の指定試験地として10年余り品種育成に取り組み、日本で初めていもち病抵抗性を持つ新品種「さちあおば」(農林19号)の開発に成功しました。

「さちあおば」はいもち病に強いだけでなく、重要病害の冠さび病(かんさびび)に対しても強い抵抗性を持ち、収量性も大変優れています。

「さちあおば」は暖地向けの牧草として注目を集めており、2004年夏から、種子の販売が見込まれています。是非ご期待下さい。
(育種開発部)

※指定試験地 国が実施する試験研究の内、立地条件などを考慮して適当と認められる都道府県の試験研究機関を指定し、委託して、実施する試験。

果樹関係ア・ラ・カルト

①「オンリーワンのみかんづくりについて考える」

～「山口みかんフォーラム」開催～

10月24日、大島柑きつ試験場は田布施農林事務所橘支所と共同で「山口みかんフォーラム」を開催しました。このフォーラムでは、生産者、消費者、関係者が一堂に会して、山口県ならではの高品質ミカン作りについて議論しました。

柑きつ試験場は交互結実栽培法などの産地に合った技術について、橘支所からはそれらの技術の普及状況について紹介しました。



これらを踏まえたパネルディスカッションでは、①生産者と消費者の信頼関係構築、②山口県のミカン産地に適応したオリジナル品種と栽培技術の導入、③園地改造などの生産基盤整備の3つが提案され、参加者みんなで「オンリーワンのみかんづくり」を進めることを確認しました。

(大島柑きつ試験場)

② 高品質ミカンづくりへの取り組み ～樹別交互結実にシートマルチ～

山口県では温州ミカンの「交互結実栽培」が普及しています。交互結実栽培とは、通常栽培の2倍量の果実をならせる生産園と全く果実をならせない遊休園に園地を二分して、



樹別交互結実栽培とシートマルチ栽培の組み合わせ
(右が生産園、左が遊休園)

毎年交互に果実をならせる、という山口県で開発された技術です。これによって、高品質の中玉果実を、毎年安定して生産することができます。一方、地面をシートで覆って雨を遮断し、土を乾燥させて果実の甘さを高める、「シートマルチ栽培」が全国的に広がっています。これら2つの技術を併用することで、甘くて浮皮の少ない高品質果実を、毎年安定して作ることができるようになりました。大島郡では、この取り組みを通して生産された糖度13度以上の高品質果実を、ブランドみかんとして商品化し、県内や東京に限定出荷しており、高い評価を得ています。

(大島柑きつ試験場)

③ 低樹高栽培で作業楽々

～アマナツを作業しやすい樹形に改造～

萩を中心とした北浦地域で栽培されているアマナツは、成木になると樹の高さが3 m以上となります。管理の際には、高い脚立^{きやたつ}や樹に登っての作業となり、作業性が悪く、安全性にも問題があります。そこで、樹を1.5 m程度の高さに切り下げ、脚立を使わず、安全に、しかも楽に作業の出来る樹形^{じゅけい}への改造を検討しています。

切り下げ3年目でも、樹の高さは2 m以下に抑えることができ、収量はこれまでの樹形(開心自然形)と差が無く、果実の揃いも良好です。また、主要な作業(せん定、摘果、収穫)にかかる時間は、従来の50%程度となり、効率的に作業ができるようになりました。今後も引き続き、樹形改造の方法や収量の変動を検証する予定です。(萩柑きつ試験場)



慣行 (開心自然形)



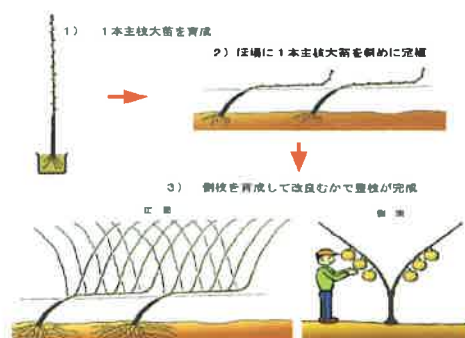
低 樹 高

④ ナシの‘改良むかで整枝法’を開発

～作業がしやすく早期成園化～

従来のナシの栽培は、成園^{せいえん}までに年数がかかる、上向きの作業が多い、整枝^{せいし}せん定に熟練と時間を要する、などの欠点があり、これらを改善するための新しい整枝法(改良むかで整枝)を開発しました。名前は、せん定後の枝の姿が‘むかで’のように見えることに由来しています。

この整枝法は、主枝を地上1 mに水平に固定して主枝から側枝を斜め上に配置する方法で、①定植4年目で3 t/10a以上の収量が確保できる、②主要作業時間がこれまでの70～80%程度の時間で行える、③ほとんど脚立を利用せずに作業が可能となる、④手を上げる作業が減少する、など多くのメリットがあります。来年度から現地での栽培試験を行う予定にしており、生産者から期待されている技術です。(栽培技術部)



改良むかで整枝の概念図



改良むかで整枝 (定植3年目、品種：豊水)

山口県の伝統果樹

山口県オリジナル「長門ユズキチ」

「長門ユズキチ」は田万川町を中心とした北浦地域において古くから栽培されている香酸カンキツです。スダチやカボスと同じくユズの近縁種とされ、近年、長門市や豊北町でも新たな栽培が始まっています。

果実は扁球形で、外観はスダチとよく似ており、成熟すると100g以上になりますが、主に緑果を利用します。果皮は薄く、ユズとスダチをブレンドしたような独特の香りを持ち、果汁は8月上旬から搾れます。果汁は、香酸カンキツの中でも、最も多い部類に属し、食材を引き立てるやわらかな香りとまろやかな酸味に特長があり、醤油との相性がとても良いなど、料理や加工素材として注目を集めています。

現在、「長門ユズキチ」の安定生産・安定供給に向け、生産技術と緑果の貯蔵技術について研究を進めています。
(萩柑きつ試験場)



開花期（5月上旬）



果実（8月中旬）

☆ 利用方法（例）

- ・ 刺身用の酢醤油
- ・ 鍋物に醤油との合わせ酢
- ・ 焼き魚、酢の物の酢
- ・ そうめん、冷や奴の薬味（皮をすり下ろす）
- ・ 焼酎への果汁、半切りでの利用
- ・ ジュース（果汁とハチミツ等を加え水で薄める）

美東原種農場開場50周年記念行事を開催

美東原種農場は、昭和28年4月に現在の美東町大田に「大田原種農場」として設置されました。当场では、水稻・麦類・大豆の原種生産と配付をはじめ、平成11年からは原原種生産も行っています。今年開場50年を迎えるにあたり、平成15年11月22日に秋芳町で記念行事を行いました。当日は農場在職経験者、米麦改良協会や種子生産組織、県農林部関係課など県内で種子生産に係わる方々が一堂に会して、原種農場の沿革や開場当時の作業の思い出をスライドや資料で振り返りました。



※原種 品種の持つ特性が維持されている種子。原原種はその元となる種。 (美東原種農場)

〈山口県農業試験場 企画情報室〉

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL (083) 927-7011 FAX (083) 927-0214

URL <http://www.nourin.pref.yamaguchi.lg.jp/hp/kenkyu/nougyou/index.htm>

※皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。